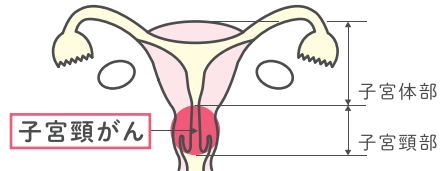




## 子宮頸がんとは？

子宮頸がんは、20代後半から増加する女性特有のがんです。子宮の入口近くにできます。



### 初期段階では、ほとんどが無症状

自分で気が付くことは困難なため、検診による早期発見が大切です。早期のうちに治療すれば90%以上が治癒することがわかっています。\*1

【発見時の進行度に応じた5年生存率】

ステージⅠ期  
93.0%

ステージⅣ期  
29.2%

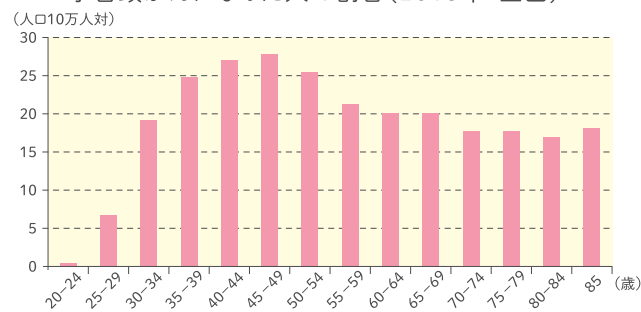
「ステージ」とはがんの進行度を表し、Ⅰ期(初期)からⅣ期(末期)に分類されています。

出典：(公財)がん研究振興財団「がんの統計'18」

\*1 ここでの「治癒」とは、診断時からの5年生存率です。

### 子宮頸がんになる人は、20歳代後半から増加し、30歳代後半～40歳代が多くなります。

子宮頸がんになった人の割合(2015年・全国)



## 子宮頸がん検診ってどんな検査？

子宮頸がん検診は、子宮頸がんを早期に発見し、死亡率を減らすことが証明されている検診です。

**20歳から、2年に1回**

定期的に受診することが大切です。



### 検診の内容

- 医師による診察
- 細胞診 - 専用のブラシを用いて子宮頸部の細胞をこすって採取し、顕微鏡で調べます。

### 検診はどこで受けられるの？

- お住まいの区市町村
- 職場の検診\*2
- 人間ドック など

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。\*3

### こんなときはすぐ医療機関へ

次のような症状に気づいたときは、検診を待たずにすぐに婦人科医療機関を受診してください。

- ・ 不正出血
- ・ おりものの異常 (茶褐色～黒褐色)
- ・ 性交時の出血
- ・ 下腹部の痛み など

\*2 検診を実施しているか、各職場にご確認ください。

\*3 検診では、がんではないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合があります。



## 子宮頸がんの原因って？

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因となって発生することが分かっています。

- HPVは主に性交渉により感染します。

- 女性の多くが一生涯のうちには一度は感染するという、ごくありふれたウイルスです。感染は一時的で症状もないことが多く、自然に消えることがほとんどです。

HPVの感染が長期間持続すると、その一部が、数年～十数年後に子宮頸がんを発症させると考えられています。

- HPV感染症の予防ワクチンは、子宮頸がんの原因となる2種類(16型、18型)のウイルスに対して、予防効果があると報告されています。

- ワクチンだけで、子宮頸がんを完全に予防できるわけではありません。ワクチンを接種した場合も、**子宮頸がん検診を定期的に受診して、早期発見を心がけることが大切です。**

